

3 日本が誇る世界遺産等を次世代に引き継ぐための支援

世界遺産として登録されている「古都京都の文化財」17件（宇治市，大津市の3件を含む）の社寺・城のほか，世界遺産に匹敵する価値を有する数多くの文化遺産を，人類共通の財産として守り，育て，次世代に引き継ぐため，次のとおり求めます。

提案・要望事項

- (1) 世界遺産をはじめ文化遺産を保存・活用するための財政支援及び税制優遇の拡充
- (2) 文化財が集積する京都市における文化財保存活用地域計画の策定等に対する財政支援
- (3) 世界遺産とそのバッファゾーンを一体的に保全するための財政支援
- (4) 「和装」，「華道」，「茶道」，「庭園文化」，「香道」，「書道」，「盆栽」等のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組・支援

(文化庁)

世界遺産をはじめとした文化遺産を保存・活用するための財政支援の拡充等

京都市内には、世界遺産「古都京都の文化財」を構成する14件の社寺・城や、世界遺産に匹敵する価値を有する数多くの文化遺産が存在

3,000件を超える文化財の宝庫

例えば・・・

【有形文化財】

国宝 212件 (全国比 19.2%)
 重要文化財 1,879件 (全国比 14.3%)
 国登録文化財 417件
 市指定・登録文化財 345件
 府指定・登録文化財 153件

【無形文化財】

国宝 10件
 府指定文化財 12件

～京都市独自の取組～

- ・市指定文化財を対象に、修理費を助成
- ・市内の多彩な有形・無形の文化遺産を選定
(京都を彩る建物や庭園、京都をつなぐ無形文化遺産)

まち・ひと・こころが 織り成す京都遺産

京都の文化遺産をテーマごとにまとめ、地域性、歴史性、物語性を持った集合体として認定



「明治の近代化への歩み」
琵琶湖疏水

文化遺産の維持・継承・活用が課題！
 そのためにも、

- ① 指定・登録以外の文化財に対する相続税などの税制優遇の拡充
- ② 文化財を次世代に引き継ぐための修理・整備・公開に対する財政支援の拡充

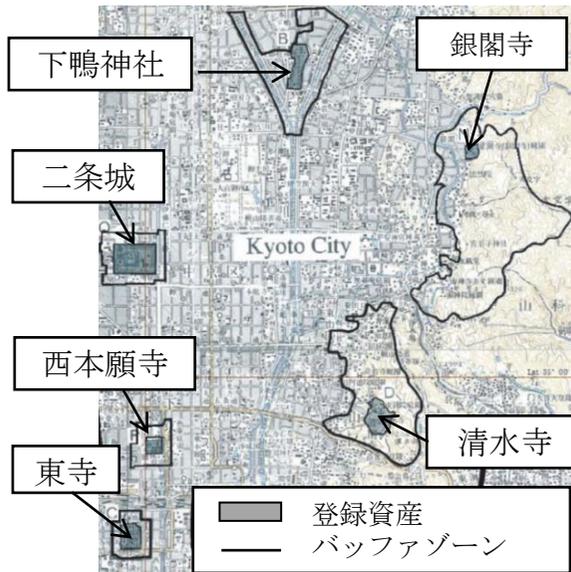
また、

市町村の文化財保存活用地域計画の策定・推進
 (改正文化財保護法^{*})における、文化遺産の集積度に応じた財政支援

※平成30年5月23日現在、国会審議中

が必要！

世界遺産とそのバッファゾーンを一体的に保全するための財政支援



現状・課題

- 世界遺産の周辺に、広範囲のバッファゾーンを設定
- 京都市では、都市計画法、景観法、古都保存法のほか、市独自の眺望景観創生条例等を活用し、全国でも類のない厳しい景観規制を実施
- (自主的に)世界遺産の包括的保存管理計画を策定することとし、予備調査に着手
- 世界遺産等の周辺について、地域の自然や伝統、文化等との調和を踏まえ、地域ごとの特性に応じたより良い歴史的景観を創生するための市独自の事前協議制度を創設(平成30年10月～実施予定)
- 事前協議制度の運用において、まず、世界遺産の価値や周辺の景観特性を明確にし、世界遺産のバッファゾーン内での開発計画等については、特にそれらに配慮した高い水準の計画となるよう、専門家を交えた協議の場を設け、誘導する予定である。
- しかし、これらの取組の中には、国の補助対象とならない施策もあり、財政的な負担が課題となっている。

世界遺産と一体的にバッファゾーンの魅力を向上させるため、
 世界遺産周辺の環境整備に係る財政支援の拡充が必要！